

<平成28年度日本水産学会春季大会ミニシンポジウム企画>

エリアケイパビリティーアプローチによる漁村開発

日時・場所：平成28年3月30日(水) 9:00 - 12:00 東京海洋大学品川キャンパス

企画責任者：石川智士(地球研)・有元貴文(海洋大)・黒倉 寿(東大院農)・江幡恵吾(鹿大水)

9:00- 9:10 趣旨説明 石川智士(地球研)

9:10- 9:30 エリアケイパビリティーの紹介 渡辺一生(地球研)

座長：石川智士(地球研)

9:30- 9:50 1. フィリピン国パナイ島北部バタン湾の沿岸社会と小規模漁業

宮田 勉(中央水研)

9:50-10:10 2. フィリピン国バタン湾における“つくる漁業”とエリアケイパビリティーの向上

黒倉 寿(東大院農)

10:10-10:30 休憩

10:30-10:50 3. タイ国ラヨン沿岸の小規模漁業の多様性と重要性

江幡恵吾(鹿大水)

10:50-11:10 4. タイ国ラヨンにおける定置網導入によるエリアケイパビリティーの向上

有元貴文(海洋大)

11:10-11:30 5. タイ国漁村におけるエコツーリズムとエリアケイパビリティーの向上

堀 美菜(高知大黒潮圏)

11:30-12:00 総合討論

企画の趣旨

エリアケイパビリティーアプローチ(ACアプローチ)は、地域の独特な資源を見つけ、地域住民組織が活用と維持活動をすることで地方創生が促進されるとする新たな地域活性化モデルある。本ミニシンポジウムでは、このACアプローチを、

沿岸社会に適応する場合の可能性と問題点について、フィリピンとタイでのいくつかの事例を基に議論し、今後の漁業研究と漁村振興の新たな方向性を検討する。